

第1日目 11月17日(土) 13:00~20:00 (役員会は10:30~)

時間	内容		会場
10:30~12:00	理事会・評議員会		会場 (W214)
12:00~	大会受付開始 (S109)		
13:00~13:50	ポスター発表コアタイム		会場 (S109)
<p>一般講演 ポスター発表 (展示は2日目の15時まで) ○: 発表者、※: 優秀講演発表賞対象者 会場 (S109)</p> <p>P-1 ○板倉修司・梅澤 究 (近畿大学農学部) 不連続土壌処理によるヤマトシロアリコロニーの根絶</p> <p>P-2 ※○北野大輔・高倉耕一 (滋賀県大・院・環境) 非成虫期ミバエ類を対象としたオンサイト分子同定法</p> <p>P-3 ○中西康介・横溝裕行・林 岳彦 (国立環境研究所) 水田における育苗箱施用殺虫剤がアキアカネの激滅に与えた因果的影響の評価</p> <p>P-4 ※○木村 文・宮田弘樹 (㈱竹中工務店 技術研究所) 兵庫県川西市の落葉広葉樹二次林におけるカシノナガキクイムシの分布調査</p> <p>P-5 ※○久岡知輝 (滋賀県大・院・環境)・中西康介 (滋賀県立大学環境科学部, 滋賀県立琵琶湖博物館, 国立環境研究所)・西田隆義 (滋賀県大・環境) 外来ドジョウは棲み分けを引き起こす!? ~滋賀県における2種のドジョウ属の棲み分けの可能性~</p> <p>P-6 ※○大見智之・高倉耕一 (滋賀県大・院・環境) ツバメの営巣密度に対する琵琶湖の影響</p> <p>P-7 ※○渡辺祐基¹・小峰幸夫²・佐藤嘉則²・富松志帆¹ (1九州国立博物館、2東京文化財研究所) ヤマトシミの発育および食性に関する基礎的検討</p> <p>P-8 ○木村悟朗・柴山 淳、内田有治 (イカリ消毒㈱技術研究所) 蓄光シートの種類の違いが飛翔性昆虫の誘引に及ぼす影響</p> <p>P-9 ※○中山 桂・上田昇平・平井規央 (大阪府大院・生命) 日本海側における海浜性コウスバカゲロウ属2種の遺伝的多様性</p> <p>P-10 ○B. Wikantyoso^{1,2}, S. K. Himmi², S. Yusuf², T. Yoshimura¹ (1 RISH, Kyoto University, 2 LIPI, Indonesia) A Case Report of Termite Attack on Mango Fruit: Reviewing <i>Coptotermes gestroi</i> Status as Potential Urban Pest in Indonesia</p>			
14:00~15:45 一般講演 ○: 発表者、※: 優秀講演発表賞対象者 座長は最初を除いて前の講演者をお願いします			
	A会場 (W106)		B会場 (W214)
14:00	A-1 ※○風間春奈 ¹ ・石栗陽一 ² ・森 直樹 ¹ ・吉永直子 ¹ (1京大院農, 2青森産技セ リンゴ研) モモシクイガに対する炭酸カルシウム水和剤の産卵阻害活性	B-1 ※○森井清仁 (滋賀県大学・院・環境)・高倉耕一 (滋賀県大・環境科学部) ビワコガタスジシマドジョウにおける繁殖個体群の高齢化と絶滅のリスク	
14:15	A-2 ※○高原千尋・清水伸泰 (京都学園大学大学院バイオ環境研究科) シキミグンバイ若虫分泌物に含まれる抗菌活性物質の構造活性相関研究	B-2 ※○大塚健斗 ¹ ・松田暢啓 ² ・石川史弥 ² ・平林公男 ³ (1信大院・総合理工学, 2信大繊維学部, 3信州大学学術研究院理工学域) 秋季大規模洪水がシマトビケラ科越冬世代幼虫の二次生産力に与えた影響 ~ウルマーシマトビケラとエチゴシマトビケラに着目して~	
14:30	A-3 ※○鈴木安貴子・小野寺裕之・向永真也・菊田さやか・丹羽涼子・大島 務・川尻由美・中山幸治 (大日本除虫菊㈱中央研究所) 仮設トイレの防虫対策製品の開発	B-3 ※○中本光玲 ¹ ・上田昇平 ¹ ・上田嘉一 ² ・平井規央 ¹ (1大阪府立大院・生命, 2ならやまと虫の会) 外来種ムネアカオオクロテントウの発生長と発育	
14:45	A-4 ※○小野寺裕之・鈴木安貴子・向永真也・菊田さやか・丹羽涼子・大島 務・川尻由美・中山幸治 (大日本除虫菊㈱中央研究所) 仮設トイレの臭い対策	B-4 ※○渡邊琢斗 ¹ ・兵藤不二夫 ² ・平井規央 ¹ ・上田昇平 ¹ (1大阪府立大院・生命, 2岡山大学) 侵略的外来種アルゼンチンアリが在来アリ群集におよぼす影響	

15:00	A-5 ※○中野由布妃 ¹ ・荒木颯太 ¹ ・杉浦正明 ² ・竹松葉子 ² (1 山口大学農学部・2 小笠原シロアリ防除センター) 小笠原諸島の父島および母島におけるヤマトシロアリ属の分布について	B-5 ○中村寛志 (ミヤマシジミ研究会)・土田秀実 (辰野いきものネット)・小野章 (辰野いきものネット)・宮下康司 (長野県上伊那地方事務所農地備課)・加藤大輝・江田慧子 (帝京科学大学) 長野県辰野町荒神山におけるミヤマシジミ個体群の保全について (その2) ー農業用ため池堰堤の改修工事とミヤマシジミ個体群についてー
15:15	A-6 ○三石帆波・山城敬範・小林洋子・引土知幸・川尻由美・中山幸治 (大日本除蟲菊株中央研究所) コバエ用ワンプッシュエアゾールの検討	B-6 ○江田慧子 (帝京科学大学)・那須野雅好 (安曇野オオルリシジミ保護対策会議)・須之部大 (一般財団法人公園財団)・萩原正朗 (公益財団法人日本自然保護協会)・中村寛志 (ミヤマシジミ研究会) 国営アルプスあづみの公園とその周辺へのオオルリシジミの生息域拡大プロジェクト
15:30	A-7 ○藤本いずみ・吉村 剛 (京大生存研) ヒラタキクイムシ類成虫の羽化脱出後の寿命について	B-7 山崎一夫 (大阪健康安全基盤研究所) 屈曲した芽による対植食性昆虫防御
15:45	休 憩	
16:00~17:45	総会 (会場W214) 学会賞 受賞講演 優秀講演発表賞 表彰	
18:00~19:30	懇親会 吉田食堂	

第2日目 11月18日 (日) 9:30~16:00

9:30~11:45 一般講演 ○:発表者 座長は最初を除いて前の講演者をお願いします		
	A会場 (W106)	B会場 (W214)
10:00	A-8 辻 英明 (環境生物研究会) 工場の防虫モニタリングデータと管理水準・予察条件	B-8 松本和馬 ギフチョウの mate locating behavior の可塑性について
10:15	A-9 ○大村和香子 (森林総研)・遠藤菜緒子 (只見町プナセンター)・榎原寛 (元・森林総研) 工芸品における乾材害虫の発生と食害状況の観察事例	B-9 ○今井健介・村上忠幸 (京都教育大学) 食樹の葉の硬さがアゲハチョウ幼虫の摂食能力に及ぼす影響
10:30	A-10 ○吉村 剛・藤本いずみ (京大生存研)・飯田高雄 (滋賀環境衛生株)・佐古生樹 (山本ピニター株) 高周波による乾材害虫類の殺虫処理	B-10 池田健一・平井規央・○上田昇平 (大阪府大院・生命環境) 外来種アゲトアリが在来の土壌動物に与える影響
10:45	A-11 ○横尾暢哉・三木剛嗣 (アース環境サービス株) キイロシヨウジョウバエ <i>Drosophila melanogaster</i> とクサビノミバエ <i>Megaeselia scalaris</i> を用いた昆虫の捕虫器への捕獲に対する風の影響	B-11 ○岩田隆太郎 (日大・生物資源)・佐々木翼 (日大・生物資源)・廣瀬博宣 (廣瀬産業)・金尾太輔 (沖縄科学技術大学院大学) Termitohospitini 族ハネカクシの鹿児島県産イエシロアリの巣からの発見とその生物地理学的意義

11:00	A-12 ○七呂陽子・田丸友裕・猪口佳浩・下方宏文・引土知幸、鹿島誠一・川尻由美・中山幸治（大日本除蟲菊(株)中央研究所） 植物由来の香料成分を用いた衣料用防虫剤の開発	B-12 辻千香子（九大農）・屋宜禎央（九大院生資環）・Khine Mon Mon Kyaw（九大院生資環）・○広渡俊哉（九大院農） 九州大学伊都キャンパスにおける潜葉性小蛾類の種多様性
11:15	A-13 ○清水伸泰 ¹ ・小野淳也 ¹ ・平坂高一 ¹ ・市川直美 ² ・川瀬穂高 ² ・(1 京都学園大・バイオ環境, 2 住友化学園芸(株)) 節足動物の防御物質を用いた殺虫および殺ダニ効果の検証	B-13 松本竜太郎・上田昇平・○平井規央（大阪府大院・生命） 能勢町における水生昆虫の群集構造と生息場所選好性
11:30	A-14 藤井義久（京大・院・農） 伝統木造にみられる蟻害・甲虫害の特徴	
11:45~13:00 昼食		
13:00~16:00 市民公開シンポジウム (W100)		
<p>市民公開シンポジウム —近年の森林環境の変化と生物多様性保全の課題—</p> <p>近年、シカの増加による下層植生の衰退が全国的に広がりを見せており、単に植物の消失だけでなく、他の生物への間接的な影響や、土砂流出や水質変化などの環境変化も問題視されている。また、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害は、ブナ科樹種の集団枯損を引き起こし、二次林だけでなく天然林でも林相の変化をもたらしている。さらに、現在、国は人工林の齢級杯分の平準化を目指した政策を進めており、人工林の大規模伐採による森林環境の急激な変化が懸念される。このような大規模で発生する森林環境の変化の現状について理解を深め、生物多様性保全のための課題について検討する。</p> <p>「シカの生息と生物多様性保全」 高柳 敦氏（京都大学大学院農学研究科）</p> <p>「冷温帯林におけるナラ枯れと長期森林動態」 山崎理正（京都大学大学院農学研究科）</p>		